

国内クレジット認証委員会御中

実績確認概要書

平成 22 年 3 月 8 日

審査機関名 SGS ジャパン株式会社

1. 排出削減事業の概要

排出削減事業名	むいかいち温泉ゆららにおける木質バイオマスボイラー導入による省エネ事業
承認番号	JCDM-PJ0093
排出削減事業者名	吉賀町役場
排出削減共同実施事業者名	丸紅株式会社
事業実施場所	むいかいち温泉ゆらら (島根県鹿足郡吉賀町有飯 238-2)
事業の概要	<p>温泉及び温水プールへの昇温・給湯と室内空調機の空調熱源として、木質焚き温水バイオマスボイラーを導入することによって、既存の灯油を燃料とする化石燃料ボイラーの燃料(灯油)の使用量を削減することが出来、同時に CO2 排出量の削減が可能となる。</p> <p>吉賀町を中心とした近隣地域の切捨間伐材等を燃料とした木質バイオマスボイラーを導入することで CO2 排出量を削減する取り組みであり、さらに、産業振興、地域活性化、森林保全対策にも寄与するものでもある。</p>
排出削減量の計画	343 tCO ₂ /年 (事業実施期間合計 1,372tCO ₂)
国内クレジット 認証期間	開始日 2009 年 4 月 1 日 終了予定日 2013 年 3 月 31 日
排出削減方法論	方法論番号 001-A バイオマスを燃料とするボイラーの新設

2. 本実績確認の対象期間

2009年4月1日～2009年12月31日（第1回目実績報告）

3. 実績確認結果

本実績報告期間における排出削減量は、承認排出削減事業計画の「モニタリング対象指標のQA/QC」に基づき算定されており、適正であることを確認した。

排出削減量	290t-CO2
-------	----------

4. 実施した実績確認手続きの概要

以下の実績確認手続きにより、報告された排出削減量に重大な誤りがないことを確認している。

要件	実績確認手続き
排出削減量が承認排出削減計画に従って実施した結果生じていること	<p>1) 開始日の確認（初回実績確認の場合） 排出削減事業計画通り、事業が開始されていることを確認した。 2009年4月1日</p> <p>2) 対象期間中の設備稼働確認 更新後のバイオマスボイラは実績確認期間中継続的に稼働していることを確認した。</p>
排出削減量が承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されていること	<p>排出削減量は、承認排出削減事業計画に従って当該計画を実施した結果生じていることを確認した。</p> <p>1) モニタリング方法の確認 モニタリング方法のうち一部（バイオマスの単位発熱量）が、承認排出削減事業計画から変更されていた。 承認排出削減事業計画では、「燃料供給業者からのデータをもとに算定」とあるが、供給業者が含水率のみ測定可能であったため、「計測した含水率より、参考文献を用いて算出する。」に変更した。 バイオマスの単位発熱量は、変更後のモニタリング方法にしたがって適切に算出されていることを、燃料発熱量の計算シート及び参考文献をもって確認した。 上記以外については、承認排出削減事業計画に従って、更新後のバイオマスボイラが導入されていること、及び本実績期間において稼働していることを、モニタリング対象</p>

	<p>指標の実績により確認した。</p> <p>具体的には、木質チップの入・出荷伝票を入手し、適切に記録・管理し、当該データを元に正確に集計されていることを、証拠との突合、検算などにより確認した。</p> <p>2) 活動量の正確性</p> <p>承認排出削減計画から変更が無いことを、質問により確認した。</p> <p>3) 単位発熱量、排出係数等の係数の確認</p> <p>排出削減量の算定式及び使用されている活動量、排出係数等が方法論（排出削減方法論について：別表）及び承認排出削減事業計画に従っていることを確認した。</p> <p>バイオマスの単位発熱量のモニタリング方法が、承認排出削減事業計画から変更されている点につき、1) 参照。</p> <p>4) 排出削減量算定方法及び算定結果の確認</p> <p>事業実施後排出量、ベースライン排出量は、方法論及び承認排出削減事業計画に従って適切に計算され、算定結果は正確であることを確認した。</p>
<p>算定期間が 2013 年 3 月 31 日を超えないこと</p>	<p>算定期間は 2009 年 12 月 31 日までであり、2013 年 3 月 31 日を超えていない。</p>

5. 承認排出削減事業計画からの重要な変更点についての評価（該当する場合）
該当なし。

以上